

◆夏から秋へ

毎年7月から8月に開催している『八海山夢展』では、絵画・書道・写真・水石・工芸の5部門94人が出展。今年は解説会や体験教室、撮影会などが特に盛況で、陶芸教室では皿やコーヒーカップなど小品を自由に制作し、書道では色付けしたうちわに筆で字を書いてオリジナルうちわを作るワークショップを開催、飛び入り参加者もあり、予備のうちわもなくなるほどでした。今年も実行委員会や出展者の皆様のおかげで盛大に開催することができました。来年も色々工夫しながら実施したいと思えます。

そして、9月29日からは「NHK連続テレビ小説ばけけ」が始まります。小泉セツと八雲夫妻がモデルということで注目が集まっています。当館では小泉家から寄贈された手紙や公文書、愛用の品などゆかりの資料を収蔵しており、小泉八雲文学資料室で常設展示しています。11月からは企画展も開催します。ドラマでは明治の松江を舞台に民話や昔ばなしが大好きな主人公トキが、英語教師として松江に来た外国人のヘボンと出会い……登場人物も多彩で、どんなストーリーになるのかとても楽しみです。(広田かおり)

◆思い出

私事になりますが、イケビに勤め始め、早いもので10年が経ちます。美術館に携わってくださる皆様にお世話になりながらここまで勤めることができました。心より感謝申し上げます。

げます。10年経つと、小学生だった娘も来年の春には社会人になります。あつという間で。この10年間で色々なことがありました。

企画展の関連で作家さんと市内の小学校に出前授業にでかけたり、東京から八色の森公園に遊びに来た子ども会のワークショップを開催したり、学芸員と二泊三日の出張に行ったりと、日々、色々ありましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延の時は大変でした。一ヶ月以上の休館を余儀なくされ、企画展はもちらん、イベントは一切開催することができなくなりました。世界中がこのままどうなってしまうのだろうと不安な日々が続く、見えない敵と闘いました。感染対策をしつつ、徐々にイベントや講座などの開催を始め、様々な展覧会を行えるようになりました。

今まで、たくさん作家さんや関係者の方にお会いし、素敵な作品をたくさん拝見させていただきました。毎回、刺激や感動、発見をしています。仕事を通じた作家さんや作品との出会いは、私の心の中に刻み込まれています。(山口加奈子)

◆「つくる」を楽しむ出前授業

池田記念美術館では地元の教育機関と連携し出前授業(アートワークショップ)を開催しています。

中学校美術部では、現代アーティストとして活躍している作家2名に講師を務めていただき、こども園・学童クラブでは美術館スタッフが企画を考えて行いました。「上手な作品を作る」ことが目的ではなく、「制作プロセス」を重視し、体感・体験してほしい「ねらい」をもとに企画をしています。

例えば、こども園では【平面と立体の見え方の変化】をテーマに制作を行いました。子どもたちが透明なシートに、スポンジ、木の枝、緩衝材など様々な道具を使い絵の具で色付けし、それを立体展開図の形に切り抜き、組み立ててもらいました。立体になったことで奥行きが生まれ、覗き込んだり、光にかざしてみたり、積み上げてみたり、変身した姿を楽しんでくれました。

出前授業で制作した作品は、9月開催の企画展『八色の森ビエンナーレ2025』で展示します。プロの作家と子どもたちのエネルギー満点の作品のコラボレーションをどうぞお楽しみに。(山室業由)

◆八色の森ビエンナーレ2025

今年の5月から地域おこし協力隊のスタッフが美術館を拠点に活動しています。すでに、こども園や学童クラブ、小学校、中学校美術部などで何回も出前授業を実施してきました。



こども園の園児がつくった立体は夏祭りの神輿に大変身

した。その成果は『八色の森ビエンナーレ2025』で、子どもたちの「造形遊び展」として披露します。中学生が、展示室の一室を使って、作品をどう見せたいか考えながら、作家と子どもたちの作品についての展示案を提示します。昨年、高校生が主役となった探究美術展『アート試食会』では、作品の配置法で美術関係者をアツと驚かせてくれましたが、その再現がなるかどうか、大いに期待しています。

また、会期中に中高生に集まってもらい、作品の配置を入れ替えたり、レイアウトを変更する「再展示」のワークショップを実施する予定です。一度つくった展示を解体して新たな展示を試みる……今回、中学校美術部で実践した出前授業での作品づくりは、制作↓解体↓制作の繰り返しでしたが、それを展示の場でもやってみようとの考えです。

これらの活動内容は当館の情報発信ツール「note」に随時投稿するので、どうぞご覧ください。(高橋良一)



コラージュの作品づくりに奮闘する中学校美術部の生徒たち

# 《池田記念美術館一展覧会・イベント情報》

## ■第1回 八色の森ビエンナーレ 2025 + 共同展示 造形遊び展（園児・小中学生）

◎会期：9月13日（土）～11月3日（月・祝） テーマは「美術館がはらっぱに一拡張する感性」

国内外で活躍する現代美術の作家25人の作品と、園児・小中学校の児童生徒が出前授業で制作した共同作品・個人作品を共同展示する美術展です。2017年から昨年まで8年連続で開催した「八色の森の美術展」を発展継承して、今年から2年に一度のビエンナーレとして継続開催し、芸術の力で地域づくりに貢献します。今回の開催にあたって、会期前から作家を招いて何回も出前授業を実施しました。プロの作品と子どもたちの作品を美術館に対等に展示し、相互に批評することによって、子どもたちの造形遊びへの興味・関心・探究心を高めたいと考えます。また、会期中には講演会や鑑賞型哲学対話、中高校生が解説する作品鑑賞会を企画するなど、地域と連携した注目の美術展です。併せて、高校生の探究活動とも連動して「教育の場としての美術館」の構築を目指します。

### ■作品解説会 解説：出品作家

9月13日（土）14：00～15：30

### ■オープニングパーティー 出品作家に何でも聞いてみよう！ ドリンクなど用意します。

9月13日（土）17：00～18：30 参加費：500円（高校生以下無料）

### ■講演と対話の会 講師：ヴィヴィアン佐藤（アーティスト、ドラァグクイーン、映画評論家）

9月14日（日）14：00～15：30 演題「芸術は地方を救えるか？」

### ■ワークショップ「鑑賞型哲学対話」

展示作品を鑑賞しながら哲学対話を実践します。

9月28日（日）一般対象 ※要予約

10月6日（月）園児・小中高校生対象

※時間など詳細は美術館までお問合せください。

### ■中高校生が解説する作品鑑賞会 出前授業参加の中学生や探究活動を実践する高校生が作品解説！

11月2日（日）12：30～14：00

### ■ワークショップ「鑑賞型哲学対話」 ファシリテーター：河野哲也（立教大学教授）ほか

出品作家も多数参加して哲学対話に挑みます。中高校生～一般の方大募集！ ※要予約

11月2日（日）14：30～16：30

### ■出品作家による車座シンポジウム ファシリテーター：佐々瞬（アーティスト）

どんなシンポジウムになるか当日のお楽しみ。

11月3日（月・祝）13：00～15：00

## 《次回の展覧会》

### ■NHK朝ドラ「ばけばけ」関連企画 小泉セツ資料展

◎会期：11月8日（土）～12月6日（土）

当館が所蔵する小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）関係の資料の中から妻・セツに関する関連資料を公開します。家族間で交わされた手紙や手書きのスケッチ、友人からの手紙など、貴重な資料を展示します。

### ■記念講演会 講師：小泉凡（松江・小泉八雲記念館館長、八雲の曾孫）

11月8日（土）に開催決定！ 時間など詳細はお問合せください。

〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐5493-3 八色の森公園内

TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815

【開館時間】9：00～17：00（入館受付は16：30まで）

【休館日】毎週水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、展示替えによる臨時休館

【入館料】一般 500円 高校生以下無料（団体割引、各種割引あります）

【ホームページ】<http://www.ikedart.jp>

公園の中の美術館

池田記念美術館



アクセス

上越新幹線JR浦佐駅東口より約1km、徒歩15分  
関越自動車道大和スマートICより車3分  
六日町ICより車15分、魚沼ICより車10分